

△新たな大都市制度の検討について

◆（加納委員） 先ほど横山委員がお話ししたように、私も大都市制度特別委員会の委員になったのが2回目ですが、長い間いろいろと議論をしてきました。我々ここでの議論と有識者の皆さん方にお力をいただいてさまざまな議論をしてきましたけれども、泉区の例はある種大都市制度の流れの中で市民目線で物事が進んでいるという印象はありますが、この議論が果たして市民にどこまで理解できるのか。そしてまた市民の意見を踏まえて我々がどこまで議論ができていくのか。私は何回かこういう場に出させていただいて議論していますが、自分の中で反省するところが実は多くございまして、そういう中で先ほど来のお話を含めた大阪の問題というのは非常に印象的ですし、大阪府民、市民の皆さん方もある意味では突然降ってわいたような中で、選挙という形を通して知らされていく。しかし、なかなか理解できない。でも選挙を通して1票を投じなければならないという劇的な環境の中で大都市制度とか都構想を含めて知っていく。

この後どうなるのかというと、多分1票を投じた方たちは、こんなことだったのか、いろいろなものが出てくるかと思えます。あの選挙を遠くから見ていて、横浜市としてもこういう議論を本当に市民目線で、市民の皆さん方にどう周知をしていくのか、物事を進めていく流れの中で並行して市民の皆さん方からの御意見をどう吸い上げていくのかとか、市民の皆さん方にお伝えして、その意見を集約しながらこういった委員会及び有識者の皆さん方にもお伝えして、それをベースにしながらの議論を進めていただくことは大変大きいと思うのです。そういったことから先ほど来、横山委員からお話があったように、大阪の問題はいいチャンスですから、先ほど市民に対しての周知といったときに局長から区でパネルとかいう程度のお話でしたけれども、今後市民に向けてどうアピールしていくか、意見をいただくか、それがどう反映させていくか、資料をどう提出していくか、この辺がもうそろそろ大きい課題になってくるのか思うのです。もう一度私からも市民に向けてどう発信していくのか、発信したものをこういう場に吸い上げて、どう生かしていくのかについて、局として改めて御見解をお伺いしたい。実例があるならば教えていただきながら、市民と本市がやっている大都市制度についての御見解をいただければと思います。

◎（浜野政策局長） 非常にわかりやすい説明ができないというのが我々の問題と認識しております。並行してこんな話をしているという御紹介ですが、18区の区長たちと大都市制度について、政策局はこう考える。現場の区ではどうかというようなやりとりをしまして、やはり市民の方はわからないという話が出てくるわけですね。区長にわかってもらわないといけないということでやっているのですが、そういう中でも市民の視点はこうだとか、いろいろ御意見もいただいています。もっと踏み込めば今現実に課題が余り見えていないけれども、将来、10年、20年先はこういう課題が出てきますよということを御提示しながら、それに向けて今から何を準備するかというアプローチもあるかと思っております、いろいろ方法を少し試みたいと思います。いずれにしても、委員御指摘の点は大変重要と改めて認識を強くしています。